



学校は失敗するところ！ 教室は間違えるところ！ 授業は子供が主人公！ 誰一人取り残さない！
子供の成長を教育活動のど真ん中におく！ One for all. All for one. ONE TEAM. チーム拝二小

I 共通の目的・目標

これからの社会は Society 5.0 を迎え I to T (Internet of Things) で全ての人とモノがつながり、人口知能 (AI) の飛躍的な進化とともに、将来の変化を予測することが困難な時代に直面している。

また世界では、温暖化、飢餓、紛争、格差、感染症といった国境を超えた課題が山積している。

地域・児童の
実態

「自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協調して問題解決を図り、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人間の育成を図っていく。」

◎よく考える子 (知)

自ら学び考え・判断し、協働して問題解決を図る子

○心ゆたかな子 (情)

自分のよさを見つめ、他者を尊重し、共によりよく生きる子

○元気な子 (意・体)

自らすすんで挑戦し、最後までやり遂げる子。

自らすすんで心と体を鍛えたくましく生きる子

II 目的・目標を達成するためのアプローチ！

- 1 学年主任・専科主任は、リーダーシップを発揮し、意図的・計画的に学年・専科チームとして学年会・専科会を設定し、協議・学び合いの場・【協働解決の場】とする。
○ 学年・専科チームで学習指導・生活指導・生き方指導、経営等を共通理解し、共通実践をする。
- 2 管理職・学年メンバー・専科等との相互の「報告」、「連絡」、「相談」の徹底を図る。
- 3 授業は、伝統的な知識注入型授業から脱却し、各教科等の単元導入前に、必ず、学年会で指導内容及び指導方法の共通理解を図り、「拝二小授業カスタム標準 20Ver. 4」に基づき、「主体的・対話的で深い学び」の具現化を図る。朝学習は、「10 チャレ」、「読み解く力」、「思考力・判断力・表現力等」を育む観点から、学年で共通して実践する。
- 4 「主体的・対話的で深い学び」を具現化するため、学年会で事前に「拝二小学級カスタム標準」の取り組み方の共通理解を図り、PDCA サイクル化を実施する。
- 5 学年で、各教科等の指導計画について、カリキュラム・マネジメント（指導計画のPDCA サイクル化）を実施する。
- 6 教室環境等は、清潔に保ち、ユニバーサルデザイン（障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず多様な人々が利用しやすいよう教室等の環境をデザインする考え方）にする。
- 7 学級経営は「拝二小 学級カスタム標準」を活用して、子供自身が主体的に、セルフモニタリング及びセルフトレーニングができるようにする。学級経営が不安定な場合は、迅速に学年主任・管理職に相談し解決を図る。

III チームを創っていく〈チームビルディング〉！

ワーキンググループでは個々のメンバーがどのような業務を担当するのか、理解し合うだけで、あくまでも個人の責任のみに帰する。チームは共通の目的・目標、及び達成するためのアプローチを共有し、意思疎通を図り、連帯責任をもち、協働的問題解決能力が高め、チーム力を持続的に発揮していく。

その成果は、ワーキンググループは、例えば 10 人いたら、その成果の最大は、「10」にしかならない。しかし、チームでは、2 倍、3 倍、10 倍の「20」、「30」、「100」にもその成果を大きく発展させることができる。

IV 健康・家族を第 1 に！

社会人として教職員として、先生方には、子供の前に明るく爽やかな姿で立ってほしいです。そのためには、家族や健康に憂いがあるはなりません。また、子供の感性は、とても敏感で、教職員の心身の状態を察知します。それだけに、家族や健康に憂いがあったら、すぐに相談してください。

V 社会との「かけはし」になる！

学校教育には「社会に開かれた教育課程」の展開が求められています。それだけに、教職員には「社会の動き・出来事」に敏感である必要があります。また、何よりもこれからの社会の創造を担う子供たちです。是非、社会と子供たちの「かけはし」になってください。